

荒川下流分散避難ワーキンググループ（第4回）

議事要旨

日時：令和4年7月26日（火）15:00～16:30

場所：Web 会議（Teams）

1. 前回のふりかえり

事務局より説明

2. 規約の改正

事務局より説明

（説明資料：資料1 荒川下流分散避難ワーキンググループ規約（案）

- ・異動等に伴う名簿の改正について、異議なく了承された。

3. 「荒川氾濫時に区民の命を守る分散避難に関する区民の意識調査（国土交通省・足立区合同）（案）」中間集計結果と分析の方向性について

（説明資料：資料2-1 荒川氾濫時に区民の命を守る分散避難に関する区民の意識調査（国土交通省・足立区合同）中間集計結果、及び資料2-2 分析の方向性）

[アドバイザー・構成員等から主な意見]

- ・アンケートの結果から、Web モニターも含めて防災意識が極めて高いと読み取れる。これをすばらしいこととしてアンケートの集計結果を出せるような方向性が必要である。
- ・大部分の方が3日から1週間の孤立避難生活をできていると思っているが、食料など備蓄があっても、ライフラインが通っていないことを含めた分析が必要である。
- ・実際の浸水深と答えている浸水深について、過剰評価はいいが、過小評価はよろしくないので正答率や年齢による差異を把握した方が良い。
- ・逃げる必要のある方が逃げることを認識しているか。逆に、籠城避難が可能な方がそのように考えて備えているかの分析が必要である。
- ・コロナ前には避難所避難と考えていた方がコロナ後では減っているが、その方たちはどこへ避難しようとするようになったのかを分析し、適切な選択をしているかをチェックした方が良い。また、階層別の整理も必要である。
- ・今後の施策やこれまでの実施してきた施策の見直しの観点から、この貴重なアンケートデータの活用を図る。
- ・分散避難というものがこれからのスタンダードになり、避難所に行かなくてもいい方は無理して行かずに、正しく備えた上での他の方法もあり得るのだということを全国に先駆けて情報を発信していきたい。
- ・どの情報伝達媒体を住民の方が使っているかについて、年齢層や避難のタイミングの回答の部

分と重ね合わせることが可能であれば、有効な避難へのプロセスやストーリーが出していけるのでは。

[座長から主な意見]

- ・このデータは多くの区民の方々に御協力いただいたの回答である。報告書ができた暁には、アンケート結果を含め、区民の皆さんに伝える場を持つことが、それが区民の方々へのお返しの一つであるし、取り組みを進めていく意思表示でもある。
- ・家屋倒壊ゾーンの水平避難すべき人たちが、どういう条件下にある人たちで、その人たちをどうすべきかが、この分析の中である程度示すことができる。
- ・分散避難に資する防災施設として何を考えていくか、どういう施策をそもそも考えているのかについて、アンケートで分析できるはずなので進めるべきである。
- ・要配慮者利用施設の分散避難というものをどう考えるかも重要なテーマだと思う。

4. 今後のスケジュール

事務局より説明

(説明資料：資料3)

5. その他

事務局より次回打合せの内容を説明

以上